年頭のご挨拶

加古川はぐるま福祉会後援会
会長　前川　忠範

新年あけましておめでとうございます。

平素は加古川はぐるま福祉会後援会の活動にいろいろとご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルスは感染症法上、季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられましたが、夏以降コロナに加えてインフルエンザの大流行と重なり、心身ともに警戒しなければならない状況で新年を迎えました。どうかご自愛ください。

また、世界中では痛ましい闘いが絶えず、心痛む毎日です。その影響でエネルギー資源の高騰や円安による諸物価の高騰が進み、日々の生活や経済活動にも大きな支障が出てきています。

今年は甲辰（きのえたつ）年です。「成功」と「繁栄」をもたらすとも言われています。今年こそ、古い時代から新しい時代への転換期。これまでの我慢と努力が実り安心して生活できる年になってほしいと願っています。

さて、私が加古川はぐるま福祉会後援会会長に就任させていただき2回目のお正月を迎えました。去る令和5年6月28日に役員会を開催させていただき「加古川はぐるま福祉会」の現状や後援会活動の状況を役員一同で確認させていただきました。

加古川はぐるま福祉会は設立44年目を迎えられました。設立40年を節目に自主自立を掲げ、新生「加古川はぐるま福祉会」として障害のある方や家族の方、そして地域のために各事業が連携し地域貢献に努めておられることを改めて知ることが出来ました。

しかし、時代の流れと共に地域社会には福祉サービスが充実。さらには利用される方々の多種多様なニーズと加古川はぐるま福祉会が大切にされてきた「守る場所ではなく、生きる力を養う場所」という『基本理念』を継承するためにいろいろ取り組まれていますが、加古川の中心部から離れていることもあり、安定経営するための利用者集客という点でかなり苦戦されていることがわかりました。

当後援会は加古川はぐるま福祉会の活動と共に歩み、財政的な支援と障害のある方の理解啓発に努めてきました。そしてこの活動を支え続けて下さっているのが会員お一人おひとりです。地域の方、家族の方、仕事での出会い、ボランティアとしての出会い等々、長年にわたりご支援いただいています。令和5年度の会費振込用紙には「70歳。退職しました。これからも応援します」「コロナ緊急支援」「物価高騰緊急支援」などと記されたメッセージを拝見し、会長として人と人の繋がりと支え合う力の凄さに感銘いたしました。

当後援会は任意の組織ではありますが、こんな不安いっぱいの時代であるからこそ、人が人と繋がり誰かのためにほんの少しだけでも支え合う心を育む活動が必要です。これからも皆様と共に進めていきたいと念じております。

「会報はぐるま」新春号124号の表紙絵はご覧いただきましたか。生活支援センター「生活介護事業」の利用者さんが日中活動として取り組んだ共同作品だそうです。新聞紙と雑紙や色紙を使って落ち着いたモノクロの『辰』が完成しました。長く耐え忍んで力強く昇る様子が伝わるすばらしい作品に感動しました。

加古川はぐるま福祉会後援会の活動は加古川はぐるま福祉会を「財政的に応援すること」と「障害のある人もない人も共に生きる社会の実現」です。私は造園土木業を営み、ロータリアンとして仕事を通して職業奉仕に努めておりますが、正直、障害のある方を直接知る機会はこれまでほとんどありませんでした。縁あって会長職をさせていただいたお陰で少しずつ「知る機会」と「なれる機会」を頂いているように感じています。

非常に厳しい時代ですが、初心を忘れずに後援会会員の皆様と共に、共生社会実現のため更なる会員拡大に努めてまいりたいと思います。今年もご支援ご協力の程よろしくお願いします。

新入職員紹介

就業支援部
三宅孝聡

9月より、就業支援部で勤めさせて頂いております三宅孝聡（たかと）と申します。障がい者福祉未経験で、熱意だけの私を雇い入れて下さり、感謝に堪えません。

私は、前職高齢者福祉で18年勤めていました。4年前ある事がきっかけで人生について深く考えさせられます。4年悩んだ末、希望を胸に障がい者福祉の世界に飛び込むことを決意しました。またそんな中、私の希望を覆すような言葉にも出会います。『守られる場所ではなく力を養う場所』初めは憤りを感じるほどの衝撃的な言葉でした。しかし考え深めていくことで、私の希望はこの言葉の先にあると考えられるようになりました。今はそれを信じ、勤めております。

就業支援部で日々、自身の目標や課題と向き合い、働いている利用者さんを見ると勇気づけられます。だから私も、少しでも早く仕事を学び、利用者さんご家族に希望と安心をお届けできるよう精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

就業支援部
吉原理智

9月より就業支援員として働いております吉原理智です。ある時は高校の先生、またある時は野菜農家、障害福祉施設のケーキ職人と様々な経験を重ね、気づけば社会に出て20年以上が経ちました。

アップルの創業者スティーブ・ジョブズは晩年このような言葉を残しました。「（人生において）点を繋ぎなさい」と。一見脈絡のないこと、無駄と思えること、耐え難いほどつらいこと、人生を歩んでいれば起こりうるそれらの点を繋いでいくことによって、すべてが人生の糧となります。私自身、これまでの様々な経験があるからこそ、今の自分があると自信を持って言うことができます。

これからも利用者さんをはじめ多くの方々と出会う機会があると思います。出会った方々に「あの時、あの人に出会えてよかった」と言ってもらえる人になれるよう、日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。

クリスマスケーキ ありがとうございました

今年も株式会社前川建設様からクリスマスケーキが届きました。利用者さん、職員みんなでおいしくいただきました。たくさんの種類のケーキを目の前にして、どのケーキにするか笑顔で悩んでいる利用者さんの姿がとても印象的でした。

ありがとうございました。